

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

北島南小学校
「学力向上実行プラン」

- 基礎基本の定着
(北島南小授業のスタンダードに基づく学習規律, スキルアップタイムの活用)
- 毎時間の授業の充実(分かる授業, できる授業, 楽しい授業)

学力向上推進員 ▼ 露谷 容子	委員
	校長 大岩 秀次 教頭 坂部 公章
	研修主任 松浦 真紀 教務主任 松浦 理恵
	1学年主任 松浦 真紀 2学年主任 溝淵 良佳
	3学年主任 佐竹 有美 4学年主任 宮本 真吾
	5学年主任 菅沼 賢輔 6学年主任 次本 実央 特別支援コーディネーター 山戸 香里 阿部 結香

校長 大岩 秀次

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能が身についている児童が多い。(8割程度) ●集中して長時間取り組むことが苦手で、知識・技能の習得には個人差が大きい。	・基礎的・基本的な知識・技能を身につける。(得点率 90%以上の児童の割合を 85%以上を目指す。) ・身につけた知識・技能を用いて応用力を高めたり、生活に活用したりすることができる。	・児童の実態に合わせた教材研究に努め、基礎的・基本的な課題を繰り返し児童に与える。 ・各学年の実態に合わせて、スキルアップタイムで応用的な課題に取り組む。			

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

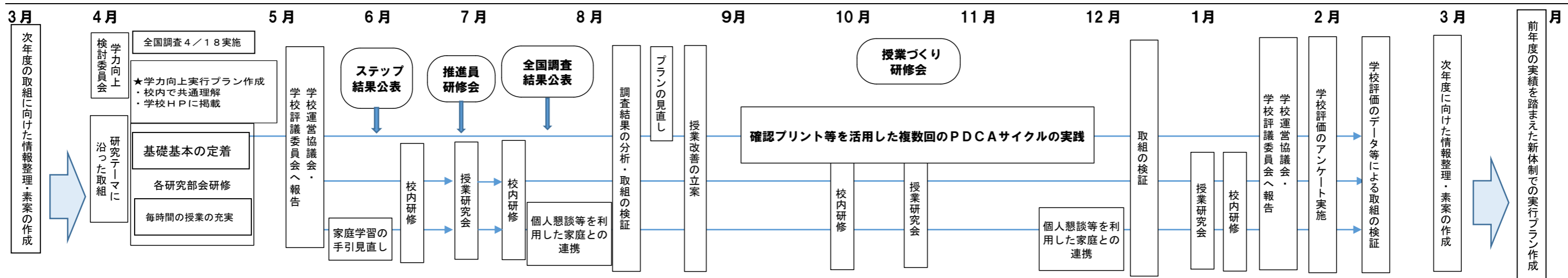
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習したことを生かして課題に取り組み、自分の力を様々な場面で活用できる。 ●自分の考えを根拠や理由を明らかにして伝えたり、簡潔にまとめて表現したりすることが苦手である。	・目的に応じて根拠や理由を明らかにしながら、相手に分かりやすく自分の考えを伝えることができる。	・グループやペアでの学習を充実させ、「北島南小授業のスタンダード」を活用して話し合いを広げたり深めたりできるようにする。 ・ICTを有効的に活用し、児童が互いの考えを共有できるようにする。 ・日記や行事の感想など、作文を書く場面を多く設定し、表現の仕方を指導する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には、真面目に取り組むことができる。 ●自主的な学習を進んでする児童が少なく、積極的に自分の力を発揮しようとする児童も少ない。	・何事にも意欲的に挑戦し、自分に必要な課題や学習方法を選択して進んで学習に取り組むことができる。	・子どもたちが自ら発言できる環境を設定する。(内発的動機づけから外発的動機づけへ) ・効果的で意欲の向上につながる自主学習の仕方を提示する。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



令和5年度

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】 からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組めたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前には個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつぶやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面で言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できることはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和5年度 学力向上ロードマップ

